



JUNSEI

製品安全データシート

1, 化学物質等及び会社情報

製品名 (特級) トリエチルアミン塩酸塩 Triethylamine hydrochloride
整理番号 20270
作成日 2004年1月29日
改訂日 2011年11月18日

会社名 純正化学株式会社
本社住所 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-4-16
連絡先及び緊急連絡先(MSDS作成担当)
担当部門 営業本部 学術担当
担当住所 〒343-0844 埼玉県越谷市大間野町1-6
電話番号 048-988-3621 FAX番号 048-988-6689
E-mail: shiyaku-t@junsei.co.jp
http://www.junsei.co.jp

用途と使用上の注意: 本製品は試薬ですので、試験研究用以外には使用しないで下さい。

2, 危険有害性の要約

【GHS分類】 事業者向け GHS 分類ガイダンス(H21.3版)を使用

物理化学的危険性	分類基準に該当するデータはなし
健康に対する有害性	分類基準に該当するデータはなし
環境に対する有害性	分類基準に該当するデータはなし

(注)危険有害性の分類で、「分類対象外」及び「分類出来ない」は項目を省いた。

【GHSラベル要素】

【GHS絵表示】 該当なし

【注意喚起語】 該当なし

【危険有害性情報】

皮膚、眼、鼻等の粘膜を刺激するおそれがある。

飲み込むと消化器官を刺激するおそれがある。

粉塵を吸入すると、鼻、のど、気道等の呼吸器官を刺激するおそれがある。

【注意書】

【安全対策】

- ・使用前に取扱説明書を入手する。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
- ・取扱い後はよく手を洗う。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さない。
- ・個人用保護具や換気装置を使用し、暴露を避ける。
- ・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用する。
- ・換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用する。
- ・粉じんの吸入を避ける。

・環境への放出を避ける。

【応急措置】

・眼に入った場合、水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。

・皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗う。

・皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受ける。

・衣類にかかった場合、汚染した衣類を再使用する場合には洗濯すること。

・飲み込んだ場合、口をすすぐ。無理に吐かせない。

・吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸し易い姿勢で休息させる。

・呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡する。

・暴露又は暴露の懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受ける。

・漏洩物を回収する。

【保管】

・施錠して保管する。

【廃棄】

・中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

3, 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別: 単一製品

化学名: トリエチルアミン塩酸塩

別名: 塩酸トリエチルアミン

化学式: $(C_2H_5)_3N \cdot HCl$

CAS No: 554-68-7

EINECS No: 209-067-2

含有量: 98.0% 以上

化審法: (2)-141 (トリエチルアミンの付加塩、トリエチルアミン: (2)-141、塩酸: (1)-215)

安衛法: 公表

4, 応急措置

吸入した場合: 新鮮な空気と安静。必要な場合には人工呼吸。医師に連絡。

皮膚に付着した場合: 汚染された衣服を脱がせ、水と石けんで皮膚を洗浄。医師に連絡。

眼に入った場合: 先ず数分間、多量の水で洗い流す(できればコンタクトレンズをはずす)。医師に連れて行く。

飲み込んだ場合: 意識あるなら、口をすすぐ。意識なければ、何も与えない。医師に連絡。

予想される急性症状及び遅発性症状: 皮膚、眼、鼻、喉、気管支等の粘膜を刺激するおそれがある。

最も重要な徴候及び症状: データなし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項: データなし

医師に対する特別な注意事項: データなし

5, 火災時の措置

消火剤

水スプレー、粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素。

使ってはならない消火剤

データなし

消火方法

周辺火災の場合、出切る限り速やかに容器を火災現場より遠ざける。移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。

着火した場合は風下の人を退避させ火元への燃料源を断ち、風上より消火剤を使用して消火する。消火に当たっては保護具を着用する。

特有の危険有害性：二酸化窒素ガスや塩化水素ガスを発生する。

特有の消火方法：データなし

消火を行う者の保護のために着用する保護具：防火保護服、手袋に加え、空気呼吸器等を着用する。

6, 漏出時の措置

人体に対する注意事項

暴露しないよう十分な換気のもと保護具着用して行う。

保護具及び緊急時措置

「8. 暴露防止及び保護措置」における、保護具着用

環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

回収、中和

漏出物を掃き集めてふた付の空容器に回収する。

7, 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 蒸気、ミスト、ガスが、皮膚に触れたり、吸入することがないように、局所排気したり、保護具を着用する。
- 作業場を換気する。
- 作業中は飲食、喫煙をしない。
- 強酸化剤、強アルカリとの接触に注意する。

保管

- 火気厳禁。
- 密栓して換気のよい冷暗所に保管する。
- 強酸化剤から離しておく。

8, 暴露防止及び保護措置

通気：換気装置を用いて、ミスト、ほこり、蒸気濃度を低く保つ。

管理濃度（労働安全衛生法）：設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会(2010年度)：設定されていない

ACGIH(2010年)：設定されていない

設備対策

局所排気装置、洗眼器、安全シャワー

保護具

- 防塵マスク。送気マスク、空気呼吸器等。
- 不浸透性保護手袋。
- 安全ゴーグル。
- 不浸透性保護衣。

9, 物理的及び化学的性質

外観: 白色の結晶性粉末

臭い: データなし

pH: 4.0~6.0(1%水溶液)

融点: 253-254 (分解)、245 ° (昇華)

沸点: データなし

引火点: データなし

爆発範囲の上限・下限: データなし

蒸気圧: データなし

蒸気密度: データなし

比重: 1.0689 g/cm³

溶解度: 1×10⁶ mg/L(25 水)、エタノール、クロロホルムに易溶

n-オクタノール/水分配係数: データなし

自然発火温度: データなし

10, 安定性及び反応性

反応性と安定性: 常温常圧で安定、吸湿して潮解する。

避けるべき条件(静電放電、衝撃、振動など): 湿気、熱

混触不可物質: 強い酸化剤、強アルカリ

危険な分解生成物: 加熱により分解して、一酸化炭素、窒素酸化物及び塩化水素ガスを発生する。

危険な重合反応: しない

11, 有害性情報

急性毒性 経口

データなし

急性毒性 経皮

データなし

急性毒性 吸入: ガス

データなし

急性毒性 吸入: 蒸気

データなし

急性毒性 吸入: 粉塵ミスト

データなし

皮膚腐食性/刺激性

データなし

眼に対する重篤な損傷性/刺激性

データなし

呼吸器感作性

データなし

皮膚感作性

データなし

生殖細胞変異原性

データなし

発がん性

データなし

生殖毒性

データなし

特定標的臓器 / 全身毒性(単回暴露)

データなし

特定標的臓器 / 全身毒性(反復暴露)

データなし

吸引性呼吸器有害性

データなし

12, 環境影響情報

- 生態毒性

水性環境急性有害性

データなし

水性環境慢性有害性

データなし

13, 廃棄上の注意

中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

14, 輸送上の注意

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にこなう。

国連番号: 非該当

品名: 非該当

国連分類: 非該当

容器等級: 非該当

海洋汚染物質: 非該当

緊急時応急措置指針番号: 非該当

15, 適用法令

消防法: 非該当

毒劇法: 非該当

PRTR法: 非該当

労働安全衛生法: 安衛法通知有害物(施行令、別表第九の番号): 非該当

化審法: 第2種監視化学物質相当 No.981「トリエチルアミン」(官報公示日: 2011/04/01)

16, その他の情報

参考文献

- メルクインデックス14版 9666 (トリエチルアミン)
- STNインターナショナル RTECS ファイル AQUIRE ファイル
- 危険物船舶運送及び貯蔵規則(十四訂版)国土交通省海事局検査測度課(海文堂)
- 改訂第3版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)
- NITE GHS 分類マニュアル(H18.2.10版)
- 製品安全データシートの作成指針(改訂第2版)((社)日本化学工業協会)

- 化学物質総合情報提供システム (CHRIP) (NITE) <http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>
- Hazardous Substances Data Bank (HSDB)

コメント

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。また、記載物性値は文献値であり、規格値ではありません。全ての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さい。